

シグマ委員会核データ専門部会
評価用データベースWG2年度第3回会合議事録

日時 1991年2月22日(金) 13:30~17:30
場所 日本原子力研究所 本部 第5会議室
出席者 神田(九大)、肥田(東芝)、五十嵐、浅見(NEDAC)、菊池、杉本、成田、
千葉、深堀、中川(原研)

配布資料

- DBE-90-17 前回議事録(1990年10月12日)
- DBE-90-18 評価用データファイルのフォーマット(中川)
- DBE-90-19 「核データ評価用データファイル」検索プログラム(試作)(中川)
- DBE-90-20 「統合核データ評価システム」の概念(中川)
- DBE-90-21 Feの共分散について(杉本)

議事

1. 前回議事録確認等

前回(1990年10月12日)の議事録(DBE-90-17)を確認した。
また、新たにWGに加わったメンバーを含めて作業分担を次のようにする事を確認した。

共分散グループ	杉本、神田、千葉
データベースグループ	浅見、成田、中川
評価システムグループ	岩崎、大澤、五十嵐、菊池、深堀、中川

2. 評価用データファイルの現状

浅見氏がJENDL-3の理論計算パラメータ収集の状況を報告した。「前回から収集作業は進んでいない。フォーマットの変更があったので、データの修正作業と併せて残りデータの収集を3月以降に行う予定」とのことであった。

パラメータの中には明かな誤りもあるので、それらを公開してもいいのかとの問題が提起された。この点については、パラメータの表を作成してから様子を見て検討する事にした。

「明らかにおかしいデータにはコメントを付けることも考えられる」、「次のステップとして、収集したパラメータを基にパラメータのレビューをする事も考えられる」等の意見が出された。

作表プログラムについては成田氏から「現在作成中である」との報告があった。

3. 評価用データファイルのフォーマットと検索コード

中川氏が、改良されたファイルのフォーマット (DBE-90-18) と試作的に作成した検索コード (DBE-90-19) について説明した。

これに対して、「データの中に flag を入れてることにより一つひとつのデータに対するコメントが入れられるようになる」、「JENDL-3のパラメータであることが分かるようにすべきだ」、「パソコン用の検索コードの開発も考える必要がある」、等の意見が出された。

本格的なデータベース管理システムの使用は、データ量が少ないので当面考える必要は無いということになった。

4. 核データ評価システム

中川氏が配布資料 DBE-90-20 により FORTRAN-77 で作成可能な核データ評価システムの案を紹介した。このシステムは原研の大型計算機で作成し TSS 環境下で動くことを前提にしており、機能的には、JOBSETTER の拡張版のようなものである。

これに対して AI 的手法の取り入れ方について議論した。使用コードの決定、計算結果の検討、careless mistake の削減等に AI 手法の導入が考えられる。一方、必ずしも AI を使う必要はないとの意見も出された。とりあえず、中川氏が DBE-90-20 の案に沿ったシステムの構築を進める一方で、深堀氏が、評価したい「量」を入力すると評価手法を示してくれる「核データ評価ガイダンスシステム」を考えることとした。

5. 誤差ファイル作成

杉本氏が配布資料 DBE-90-21 により、Fe の全断面積の誤差評価について作業結果を示した。今後、さらに全断面積での作業をすると同時に、他の反応も含めたケーススタディーをする事にした。次回には、NEANDC/CRP 核データ評価国際協力で行っている Fe の共分散データ検討の結果を神田氏が紹介する。

6. その他

来年度は 3~4 回の会合を開くこととした。次回は 6 月 14 日 (金) に行う。